

# 学習支援センターニューズレター

第8号

発行：令和元年9月1日 埼玉工業大学学習支援センター運営委員会

## 第8号 目次

巻頭言 無限の可能性	1
コラム 高い山は裾野が広い	2
コラム やさしい日本語	3
学習支援センター利用者数	4
学習支援センターのご案内	5

## 巻頭言

# 無限の可能性



学習支援センター長 小西 克享

すべての人は無限の可能性を持ってこの世に生を受けます。もちろん、大金持ちの家に生まれたかどうか、その後の人生に大きな影響を及ぼすことは明らかです。家庭が経済的に豊かであれば、成長するにつれて様々な習い事をしたり、よりレベルの高い教育を受けたりすることが容易になります。本人が働かなくても、親の資産で当面の衣食住には不自由なく過ごせるのであれば、努力などする必要はないかも知れません。その意味で、すべての人が平等に生まれてきたかどうかは、人によって考え方に差があるのは当然です。

ところで、人は成長するにつれて自分自身の可能性が減っていくことに気が付きます。不思議なことに、家庭の経済状況とは関係がありません。可能性をなくしたことを親や他人、さらには社会のせいにするのは簡単ですが、本当の原因は何なのでしょう。

皆さんは、後になって「あの時はああしておけばよかったのに」と後悔した経験はありませんか。例えば、テスト勉強で前日に一夜漬けの勉強がしなかったために落第点を取ったことはありませんか。もう少し前からテスト対策の勉強をしていれば合格点を取れていたかも知れません。アルバイトが忙しすぎてとか、やる気が起きなくて、などいろいろな理由をつけて勉強しなかったとすれば、合格点をとる可能性を潰したのは自分自身のはずです。

一般的に、親は子供の将来の可能性を減らすまいと、子供に対してそれぞれの家庭の経済状況に合わせた最大限の援助をしようとします。いろいろな節約をして、時には自分たちの食いぶちを減らしてでも、子供には良い教育を受けさせようとします。必死の思いで子供を大学に通わせている親御さんも多数いらっしゃるはず。それが親というもの。しかし、学生本人の不勉強や、ちょっとした不注意で単位を落とせば、大学を4年間で卒業できなくなるかも知れません。国家試験に合格しなければその職業に着けない職種では、本人が努力しないと自ら可能性の芽を摘むことになります。

人生において最初から諦めてチャレンジしなかったためにチャンスを逃すこともあれば、チ

チャレンジしたけれど、うまくいかずにチャンスを逃すこともあります。年を重ねるにつれて、チャレンジしようにも年齢という壁にぶち当たることもあります。一つの可能性が消滅すれば、それに続く枝葉のように分かれた多くの可能性が消滅する一方で、一つの可能性からチャンスをつかめば別の可能性が生まれることもあります。自分自身にどんな可能性があるのか、それをどのように生かせばよいのか、常に考えることは大切なことです。

人は四六時中頑張ることなど到底できません。そんなことをすれば病気になってしまいます。それでも、必要な時には必要な努力をしなければなりません。そのためには、将来の自分の姿を想像しながら、どのような人生を歩んで行くのが良いか自問自答することをお勧めします。長い人生をより有意義なものとするために、後になって良い人生だったと思えるようになるために、今日一日を大切に過ごすことです。様々な機会を逃し、人生の可能性を減らしていくのは自分自身に一番の責任があると思えば、人生が変わります。

大学での勉強において疑問に思うこと、わからなく悩んでいることなどがあれば、ぜひ学習支援センターを利用してください。少人数で基礎の基礎から学べ、高い学習効果を得ることができます。ひとりでも多くの皆さんが、未来の可能性を自分自身で見つけていただけるよう期待しています。

## コラム

# 高い山は裾野が広い



専任チューター（数学） 吉田光利

本年度、学習支援センターの専任チューター（数学担当）として着任いたしました吉田光利です。月・火・木曜日に学習支援センターにおりますので、気軽にお出でください。

さて、学生の皆さんは表題の言葉をご存知でしょうか。これは、私が民間企業に就職したとき、新入社員研修で叩きこまれた言葉です。富士山の姿を思い出してみてください、左右に裾野が大きく広がっている風景を思い浮かべるはずですが、本学から見える赤城山にしてもそうです。自然界には、スカイツリーのような形の山は絶対にあり得ないのです。しかも、山が高くなるほど裾野も広がります。仕事もこれと同じだということです。どんな職業に就くにしても、その道のプロとして生きていくためには、専門知識はもちろん、それを支える幅広い知識が必要だということです。

一例として、衣服販売業について考えてみましょう。単に服が好きで、流行に敏感であればよいというものではありません。まずは、言うまでもなく扱う商品に関して、素材(生地)、手入れ方法、洗濯方法、サイズ直しなどの詳しい知識が必要です。このうち素材一つとってみても、ウール、綿、アクリル、レーヨン、ポリエステル混紡など様々です。これら一つ一つの特長や弱点、耐久性や伸縮性など、すべて把握しておかなければなりません。さらに、配色やデザインに関するコーディネート、消費者ニーズに関する情報収集、店舗ディスプレイ、在庫管理、外国人客対応のための語学力など、必要な知識・技能は多岐にわたります。

私が20年近く前に、家を新築したときのことで、担当の営業マンの守備範囲の広さに感心させられました。当時、私は納得のいくまで様々な質問を彼にぶつけました。建築資材や耐震性のことはもちろん、当時はまだあまり普及していなかった家庭内LANのことまで尋ねました。彼は、それら一つ一つに対して丁寧に回答してくれたのです。さすがにプロだと感服し、信頼を寄せることができました。

大学には専門科目の他に共通基礎科目や教養科目が置かれています。これらが設けられているのも、上で述べてきたようなことが理由の一つと考えます。私は、4年前から非常勤講師として微分学等の講義も担当しておりますが、本学の学生は講義に対して非常に真面目に取り組んでいるという印象です。是非、その姿勢を生かして勉学に励み、専門の知識を深めるとともに、大いに裾野を広げていくことを期待しています。

## コラム

# やさしい日本語



専任チューター（日本語） 藏本 侑里恵

「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか。「やさしい日本語」とは普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。「やさしい日本語」の始まりは1995年の阪神・淡路大震災です。この震災で日本人だけでなく日本にいた多くの外国人も被害を受けました。その中には日本語も英語も十分に理解できず必要な情報を受け取ることができない人がいました。そこでそうした人たちが災害発生時に必要な情報を受け取れるように考え出されたのが「やさしい日本語」です。想像してみてください。外国人にとってニュースや行政からのお知らせなどに使われる日本語を理解することがどれほど困難なことか…。

今朝、5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を中心に広い範囲で強い地震がありました。気象庁では、今後もしばらく余震が続くうえ、やや規模の大きな余震が起きるおそれもあるとして、地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど、余震に対して十分に注意してほしいと呼びかけています。

↓これを「やさしい日本語」にすると…

きょう あさ じ ふん ひょうご おおさか おお じしん  
今日 朝 5時 46分、兵庫 大阪などで、大きい 地震が ありました。

よしん あと く じしん ちゅうい  
余震（後で 来る 地震）に 注意して ください。

じしん たてもの ちゅうい  
地震で こわれた 建物に 注意して ください。

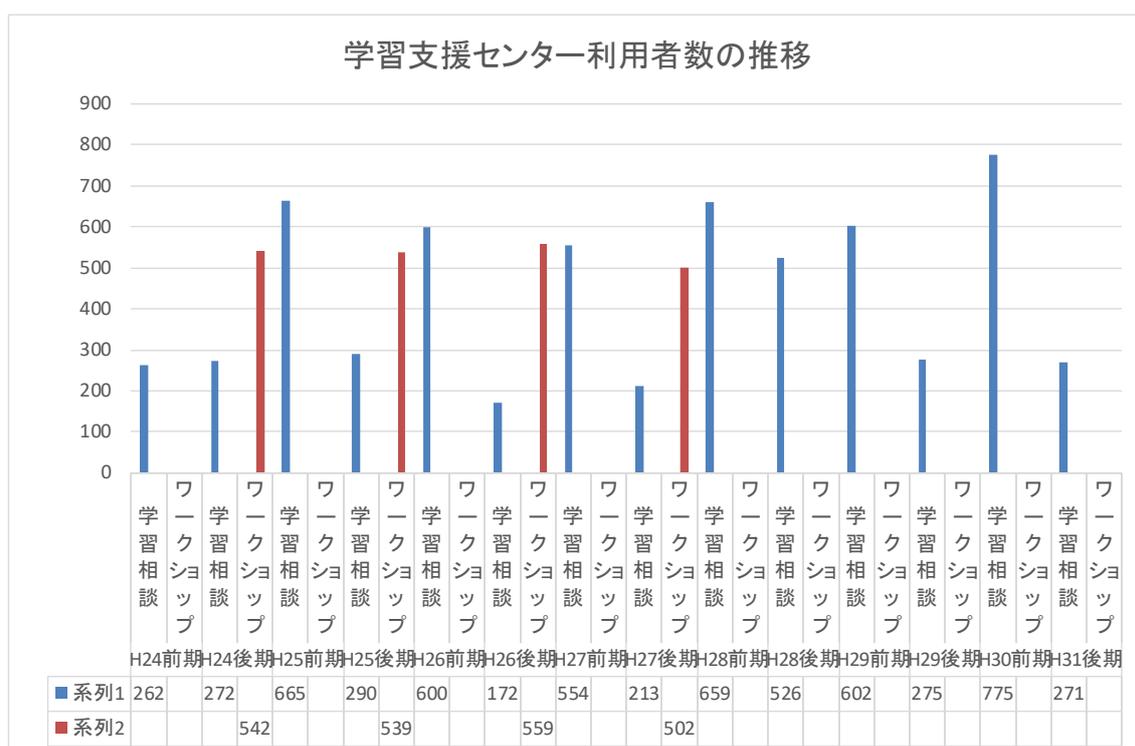
やさしい日本語は2011年の東日本大震災の時にも活用されました。また、災害時だけでなく平時における行政情報や生活情報、毎日のニュースなどにも使われています。2020年の東京オリンピックに向けて様々な取り組みも行われています。

今年4月に外国人労働者受け入れを拡大する新たな制度がスタートしました。5年間で上限34万5000人の外国人労働者を受け入れる計画です。これから日本社会は大きく変わるでしょう。みなさんのアルバイト先で、毎日立ち寄るコンビニで、住んでいるアパートで、病院で、教育現場で、いろいろな問題や摩擦が新たに生じることでしょう。

その問題に「郷に入っては郷に従え」では通用しません。文化のルーツを同じくする人はそれぞれのコミュニティーを作るでしょう。「住み分け」も一つの有効な方法です。しかし、混じり合い助け合うこともまた必要です。これから日本人は変わらなければなりません。それぞれが「国際的感覚」を持つことがとても重要です。「国際的な感覚」とは何でしょうか？私が考える「国際的感覚」は「異文化共生感覚」です。異文化の「住み分け」と「混じり合い・助け合い」のバランスがとれること、そして「混じり合い・助け合い」を受け入れ実践できることです。また、先ほど紹介した「やさしい日本語」が必要だ！といった想像力を持つことも「異文化共生感覚」の一つだと思います。あなたの周りに外国にルーツを持つ人がいますか？街で、クラスやゼミで出会ったらぜひ話しかけてみてください。あなたの「異文化共生」の始まりです。

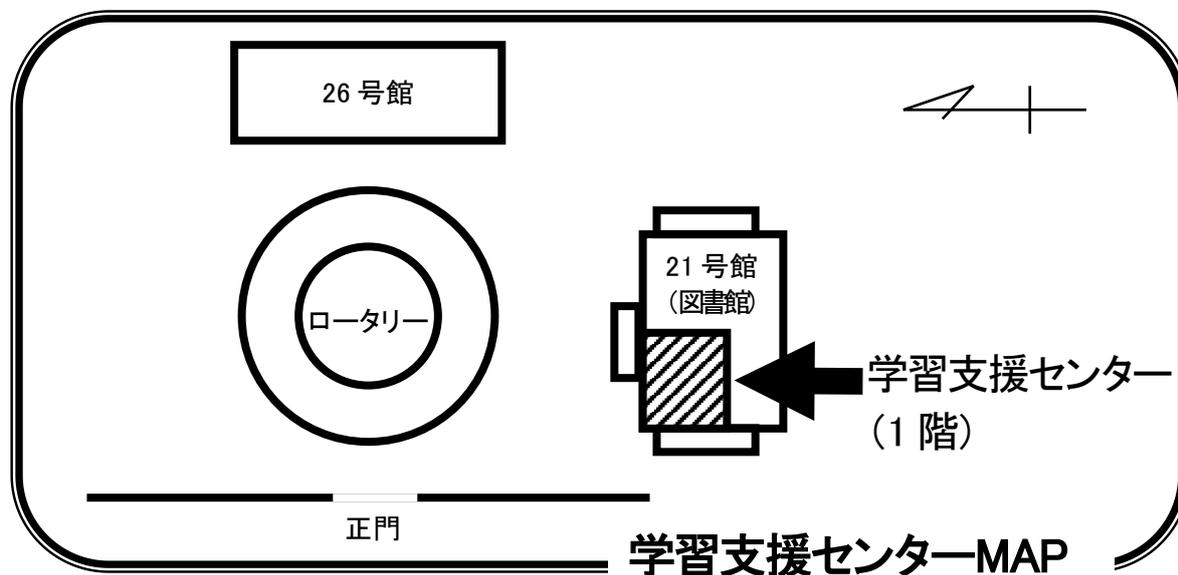
## 学習支援センター利用者数

学習支援センターは平成24年度に旧学習相談室を改組して誕生して以来、学習相談（授業理解支援セミナーを含む）、ワークショップなどを実施しています。平成24年度から平成30年度までの利用者数（延べ人数）は8278名で、年平均にすると在学生の6割弱に当たる1183名になっています。



# 学習支援センターのご案内

- 学習支援センターは 21 号館（図書館のある建物です）の 1 階にあります。図書館に入ると、右側すぐのところです。
- 利用時間は、専任チューターが（10:30-18:30）、各学科担当教員が昼休み（12:40-13:15、12:45-13:20）および夕方（16:50-17:50）となっています。



- 予約は不要です。下記 URL 記載の担当表を参考にして質問したい先生を気軽に訪ねてください。

<http://www.sit.ac.jp/lsc/information/index.html>

- もちろん、支援センターにいる先生の専門に関係なく利用できます。
- 誰に相談したらよいかわからないときは、どの時間でもかまいませんので、来室して相談してください。適切な先生を紹介します。
- TA の時間には、コンピューターの操作やプログラミングについて相談できます。
- 授業の復習の相談場所、あるいはちょっと便利な自習室として、学習支援センターを利用してください。
- 学習支援センターは、前期および後期の授業期間に開室します。



学習支援センターの利用方法や活動内容について、詳細は学習支援センターの web サイトをご覧ください。

<http://www.sit.ac.jp/lsc/index.html>

学習支援センターニュースレターのバックナンバーは、下記 URL で閲覧可能です。ぜひご覧ください。

<http://www.sit.ac.jp/lsc/newsletter/index.html>

